

人と自然:環境思想セミナー

概要・スケジュール

□概要

情報化、都市化が進む現代社会では、自然と接する機会はもちろん、そもそも自然を感受する感性そのものが失われかねません。便利になればなるほど、日々の暮らしからはリアリティが希薄になっていくような気すらします。そんな中、さまざまな分野で、新しいまなざしをもって自然からの触発をベースとして活躍する人たちがいます。彼らの現在進行形の「思い」を手がかりに、いま求められている自然との関わりの方を探っていくのが、このセミナーの目的です。

現代社会、とりわけ都市生活の中での自然との接続を求めていくにあたって、あらためて問われているのは、感性の力と暮らしの“かたち”です。セミナーで扱うジャンルは多岐にわたりますが、わたしたちは特にこの二つに注目し、いわゆる研究者だけでなく、アートや建築をはじめ、物づくりにたずさわる人たちとの対話も重ねていきたいと考えています。また、日々の生活の中で素朴に感じていることという視点を共有しながら、参加者のみなさんといっしょに等身大の環境問題の意味を吟味していきたいと考えています。

セミナータイトルについて

「人と自然」という言葉は、総合地球環境学研究所の英語名 Research Institute for Humanity and Nature にちなむもので、このセミナーのフレームワークを示しています。「人のいとなみ(Humanity)」と「自然(Nature)」との関わりは今そしてこれからどうあるべきかを考えること、それがこのセミナーの一貫したテーマです。内容はいわゆる「思想」に限定するものではありません。すでにできあがった思想の解説をするのではなく、あたらしい暮らしのかたち、物の見方を考える触媒としての「環境思想」の創造をめざしています。

経緯

総合地球環境学研究所(地球研)は、地球環境問題の解決に資することを旨として、文部科学省によって2001年に設立されました。地球環境問題を「人間文化」の問題として位置づけるとともに、理系・文系という既存の枠組みをこえた学際的研究を目玉の一つとしています。そうはいいながら、あくまで自然環境との関連で扱うわけですから、実際のところは、文化的な側面はなかなか研究成果に反映されにくいのが実情です。

そうした状況を改善するため、2007年4月、就任直後の立本成文現所長から、思想関連の勉強会を立ち上げてはという提案がありました。それを受け、同年6月より、哲学専攻の鞍田研究員の企画で本セミナーがスタートしました。当初は所内勉強会としてスタートしましたが、回を重ねるにつれ所外からの聴講者の数も増え、現在に至っています。主催は、プロジェクト「農業が環境を破壊するとき」(略称:里プロジェクト、代表:佐藤洋一郎)。2010年度以降、順次書籍化を予定しています。

人と自然：環境思想セミナー

□スケジュール

— 2007年度 —

	日 程	テーマ	講師
第1回	2007年6月26日	あるべきやうわ： 明恵上人の生涯と自然観	石塚晴通氏 (北海道大学名誉教授)
第2回	2007年7月23日	南方熊楠の森	松居竜五氏 (龍谷大学准教授)
第3回	2007年8月28日	神木聖樹の観念と神像の創造	堀越光信氏 (四日市市立博物館主幹兼学芸員)
第4回	2007年9月18日	修験道と自然	鎌田東二氏 (京都造形芸術大学教授)
第5回	2007年11月1日	ケルトから視るユーラシアの自然観： 神話・芸術・民間信仰をつらぬく「水」と「火」	鶴岡真弓氏 (多摩美術大学教授)
第6回	2007年12月6日	民芸運動の自然観と生活のかたち： バーナード・リーチを手がかりに	鈴木禎宏氏 (お茶の水女子大学准教授)
第7回	2008年1月31日	ピュシスとノモス： 初期ギリシア自然学からソフィスト思潮へ	納富信留氏 (慶応義塾大学准教授)
第8回	2008年2月14日	棲む： 建築と自然の歴史的関係	馬場徹氏 (建築家・建築商会代表)

人と自然：環境思想セミナー

— 2008年度 —

第9回	2008年4月24日	茶の湯とは何か： 別なるライフスタイルへの問いかけ	熊倉功夫氏 (国立民族学博物館名誉教授・林原美術館館長)
第10回	2008年5月23日	沈黙する美学： アートとエコロジーの対話の試み	グレゴリー・レヴィン氏 (カリフォルニア大学バークレー校准教授)
第11回	2008年6月13日	深き淵より—守破離の彼方へ： やきものの現在と自然	十五代樂吉左衛門氏 (陶芸家・樂美術館館長)
第12回	2008年7月15日	近き花、遠き花： 'たてはな'と'なげいれ'に見る自然との関わり	川瀬敏郎氏 (花人)
第13回	2008年8月21日	千年の食卓： 源氏物語を生んだ食材と料理	堀場弘之氏 (料理人・六盛主人)
第14回	2008年9月8日	人間—この有限的なるもの： キリスト教における自然と原罪思想	中川明氏 (カトリック垂水教会神父)
第15回	2008年10月1日	われわれは何を失ったのか： 焼畑と日本の基層文化	姫田忠義氏 (民族文化映像研究所所長)
第16回	2008年11月20日	気配の痕跡： 展示デザインと空間の記憶	木下史青氏 (東京国立博物館デザイン企画室長)
第17回	2008年12月22日	掌に握りしめた雪のように： 折口信夫と近代のゆくえ	安藤礼二氏 (多摩美術大学准教授)
第18回	2009年2月9日	神游(かんあそひ)の庭(ゆにわ)： 下鴨神社・糺の森の原風景を求めて	新木直人氏 (賀茂御祖神社宮司)

人と自然:環境思想セミナー

— 2009年度 —

第19回	2009年4月15日	素であること: 生活の“寸法”	坂田和實氏 (古道具坂田主人)
第20回	2009年5月13日	うるわしの暮らし: 聴竹居との出会い	栗本夏樹氏 (漆作家・京都市立芸術大学 准教授)
第21回	2009年6月24日	俺はなぜ花を愛でるのか: AMPS AZUMA MAKOTO PRIVATE SEMINAR	東信氏 (フラワー・アーティスト)
第22回	2009年7月10日	エコロジーへの感性を養うアート	長谷川裕子氏 (東京都現代美術館チーフキ ュレーター)
第23回	2009年8月14日	身体環境としての衣服	鷺田清一氏 (哲学者・大阪大学学長)
第24回	2009年9月16日	生きているスローフード: 椎葉村だより	飯田辰彦氏 (ノンフィクション作家)
第25回	2009年10月26日	風土のなかのうつわ	柳原睦夫氏 (陶芸家・大阪芸術大学名誉 教授)
第26回	2009年11月18日	another view: ランドスケープのゆくえ	柴田敏雄氏 (写真家)
第27回	2009年12月16日	1928: 風土・民芸・聴竹居	川島智生氏(建築史家) 松隈章氏(竹中工務店課長・ 聴竹居倶楽部代表)
第28回	2010年2月10日	ラブ・アグリカルチャー: いま農業にできること	中井弘和氏 (静岡大学名誉教授)

人と自然:環境思想セミナー

— 2010年度 —

第29回	2010年4月14日	丁寧ということ: 色と布と語りあう日々	清水繭子氏 (染織家)
第30回	2010年5月21日	自作について	石上純也氏 (建築家)
第31回	2010年6月16日	味わいの零度	諏訪綾子氏 (フードクリエイション主宰)
番外編	2010年7月7日	人と米の研究会 シンポジウム「人、米を醸す」	宇根豊氏 (農と自然の研究所代表)他
第32回	2010年7月21日	暮らしに寄り添う	三谷龍二氏 (木エディナイター)
第33回	2010年8月31日	土に住まう	久住有生氏 (左官職人) ゲスト:嘉戸浩氏(唐紙師)
最終回	2010年9月28日	エピローグ—そこに在るもの	尹熙倉氏 (美術家・多摩美大准教授) 森桜氏 (アート・コーディネーター)

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所
里プロジェクト(「農業が環境を破壊するとき—ユーラシア農耕史と環境」)

所在地:603-8047 京都市北区上賀茂本山 457-4

代表者:プロジェクト・リーダー 佐藤洋一郎(総合地球環境学研究所教授・副所長)

【お問い合わせ先】

総合地球環境学研究所・里プロジェクト 環境思想セミナー企画担当:鞍田(くらた)

tel : 075-707-2382 fax : 075-707-2508 e-mail : kurata@chikyu.ac.jp